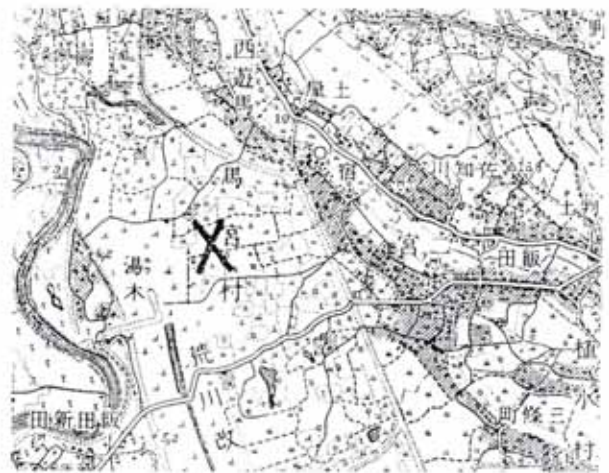


天然記念物調査報告 植物之部第十四輯

愛知縣・三重縣・奈良縣・京都府・群馬縣・東京府・茨城縣・新潟縣・静岡縣・埼玉縣・福島縣・兵庫縣・山口縣・鳥取縣・島根縣・岐阜縣・山梨縣・神奈川県ノ植物に關スルモノ
 (昭和六年十一月より同八年七月までに調査したるもの)
 Manabu Miyoshi, Botanical Natural Monuments of Aichi and Other Prefectures

文部省囑託 理學博士 三好 學



地生自草櫻村宮馬×
 (るよに圖地一分萬五部量測地陸)

馬宮村櫻草自生地

所在 埼玉縣北足立郡馬宮村大字二つ宮字大野(民有地)
 東北本線大宮驛より西方約一里半荒川の東岸に沿へる約七萬坪の原野に櫻草の發生する所あり。原野の状態は大正九年天然記念物として指定せられたる同縣同郡土合村田島原の櫻草自生地に於けるが如し。

荒川の上流沿岸地方には舊時より処々に櫻草自生地ありしが、主として河川改修工事の爲に湮滅に歸せるが、馬

サクラソウ関係図書紹介(4)

週刊朝日百科世界の植物20 サクラソウ・シクラメン 奥山春季監修
 朝日新聞社 昭和51年 A4版 28ページ 並製本

このシリーズは、分類分冊100冊、テーマ分冊20冊からなるもので、この冊は、サクラソウ科とイチヤクソウ科が掲載されている。サクラソウ科について、奥山氏の解説があり、同科には、約30属800種あり、サクラソウ属のように北半球の暖帯から寒帯にかけて広く分布するものが多いと述べられている。サクラソウ(日本産のサクラソウ属)についても奥山氏の解説で進められている。田島ヶ原の写真も大き

く掲載されている。表紙もそうであろう。続いて、ヒマラヤのサクラソウ属について金井弘夫氏の解説があり、以下、ニホンサクラソウと題して、日本の園芸サクラソウのこと、プリムラと題して、西洋サクラソウのこと、サクラソウ類と美術と題して、美術作品にあらわれたサクラソウ類のことなどが紹介されている。

週刊朝日百科植物の世界61 サクラソウ・シクラメン 清水建美責任編集
 朝日新聞社 1995年 A4版 32ページ 並製本

このシリーズは、分類編119冊、テーマ編22冊、その他4冊からなるもので、この冊は、サクラソウ科ほか2科が収録されている。サクラソウ科については、清水氏の解説があり、次のサクラソウのところ、鳥居恒夫氏が、サクラソウ(Primula sieboldii)と日本産のサクラソウ属について解説がある。大きな写真では、大分県由布岳のサクラソウ群

落が載せられている。なお、表紙は、青森県八戸市種差のサクラソウ群落の写真である。続いて、ヒマラヤのサクラソウ類、欧米のサクラソウ、サクラソウ属の園芸品種(いずれも鳥居氏)について解説がある。さらに、サクラソウの保存と題し、鷺谷いづみ氏が訪花昆虫と種子生産について述べている。

宮村の櫻草自生地は幸に今日に遺存されたり。今回調査せる所にては、同地は年々荒川の氾濫によりて洪水を蒙り爲に天然肥料の供給を受け、櫻草の發生旺盛なり。然るに昨年川越・大宮間の定期乗合自動車開通し交通の便利とな

れる爲櫻草自生地へ夥しき遊覽者あり。従て同草の採集せらるゝもの少からず。故に同地域中の適當なる部分を保存する必要を認むるに至れり。

(昭和八年五月二日調査)



錦乃原桜草



かつて国指定天然記念物であったところに造立された記念碑

夏の田島ヶ原

サクラソウの開花期も終わり梅雨を過ぎると、自生地は人の背丈を超えるほどのヨシやオギなどの原となります。この時期は観察路へ入るのも困難なほどですが、このう

っそうとした緑が強烈な夏の太陽光を遮り、地表の乾燥、温度上昇を和らげているのです。田島ヶ原のサクラソウはこうした自然の微妙な関係の中で生き続けています。



第1次指定地 観察路西側入口付近(平成9年7月撮影)



さくらそう通信

平成11年2月26日

編集・発行 浦和市教育委員会

浦和市常盤6-4-4

☎048-829-1796



題字 教育長 浅見 匡